

情熱発見。

University of Miyazaki

宮崎大学

2007-2008 A Guide to the University of Miyazaki

生き生きとした、楽しい宮崎大学

宮崎大学長 住吉 昭信



宮崎大学は、平成15年10月旧宮崎大学と旧宮崎医科大学が統合して、教育文化、医、工、農の4学部からなる大学となり、「世界を視野に、地域から始めよう」のスローガンの下、社会の要請に応じて教育・研究の質的向上と地域貢献に取り組んでおります。平成16年4月に法人化されました。

宮崎大学の3つの教育目標の第1は「人間性の教育」で、高い倫理観と責任感を育み、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する、第2は「社会性・国際性の教育」で、社会の多様な要請に応じて、社会の発展に積極的に貢献できる課題解決能力を育成する、第3は「専門性の教育」で、それぞれの専門分野に関する基礎的知識を習得し、それらを応用できる能力を育成すると共に、専門分野への深い興味を育み、課題探求とそれを解決する能力、自発的学習能力を育成する、というものであります。宮崎大学は、これらを具体的な目標として、知の継承、創造の殿堂として、活気と魅力に満ちた学風と輝くキャンパスを築き、多方面に活躍できる有為な人材を育成し、地域との連携を密にしながら宮崎の文化と風格を高め、宮崎の産業・経済の活性化に寄与出来る大学として存続し、さらに世界に羽ばたくことを目指しています。

宮崎大学は、生命科学に特色を持つ大学として「生命を育んできた地球環境の保全と人類の福祉に貢献する」教育と研究を実践し、社会の要請に応じて適切に行動できる21世紀型人材を育成します。そのためには、深く幅広い教養を身につける必要があり、教養教育を充実して、人間性に富み、異分野への理解・しっかりした倫理観・コミュニケーション能力を備え、専門教育についても、深くそして真に応用力があり、社会に出て役に立つ知識、技術が身につくよう全学的に取り組んでおり、皆さんが卒業する時に、心の底から「この大学に学んで良かった」と実感できる、生き生きとした、楽しい大学です。

宮崎は、都会からは遠く離れ、世間の喧噪から隔絶されています。それでいて最近のITの進歩の恩恵を受け、求めれば情報は瞬時に手に入ります。また温暖な気候に恵まれ、風光明媚で四季それぞれに推移し、人情は豊かで、住みやすいところです。近くに海や山もあり、古代のロマンに思いを馳せる高千穂や西都原古墳群などの古代遺跡にも恵まれ、冬の夜長は荘厳でユニークな夜神楽を至るところで見ることが出来ます。従って皆さんそれぞれが人生の一時を、学生生活を楽しみ、思索に耽る場所に事欠きません。宮崎大学は、多様な教育、研究環境が整っており、真に充実したキャンパス・ライフを楽しむのに格好の大学です。



情熱発見!
University of Miyazaki

夢を見つける。私が見つかる。

あなたには、夢がありますか。
それを叶えるために、何かやっていますか。
当然だけれど、夢を叶えたいと思うのなら、努力が必要。
しかし大きな壁にぶつかったとき、
自分だけでは、どうすることもできないことだってあります。
そんな時、その壁を乗り越えるチカラとなるのは、
友達や教授や先輩…。つまり自分を取り囲む環境ではないでしょうか。
挫けそうになったとき、あなたの夢をバックアップする環境がある。
それが宮崎大学です。

C O N T E N T S

学長挨拶 ……………01	教育・研究の特色 ……05	大学院紹介 ……………17	取得できる免許・資格 28
目次 ……………02	国際交流・地域貢献 08	附属図書館 ……………21	配置図 ……………29
大学の理念・目的 ……03	学部紹介	附属病院・安全衛生保健センター 22	アクセスマップ ……30
シンボルマークについて 03	教育文化学部 ……09	学内共同教育研究施設 ……23	
宮崎大学の歌 ……03	医学部 ……………11	キャンパスライフを支える施設 ……25	
年間スケジュール ……03	工学部 ……………13	カリキュラムの概要 ……27	
沿革 ……………04	農学部 ……………15	卒業後の進路や職業分野 ……28	

University of

■ 大学の理念・目的 (基本的な目標)

人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探究を目指す。また、変動する多様な時代並びに社会の要請に応え得る人材の育成を使命とする。更に、地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献する。特に、人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向する。

■ シンボルマークについて

宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。

さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。

また、緑(グリーン)と青(ブルー)の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。



UNIVERSITY OF MIYAZAKI

■ 大学のスローガン

世界を視野に 地域から始めよう

■ 宮崎大学の歌 作詞・熊瀬川 逸子 補作・菅 邦男 作曲・斉藤 武

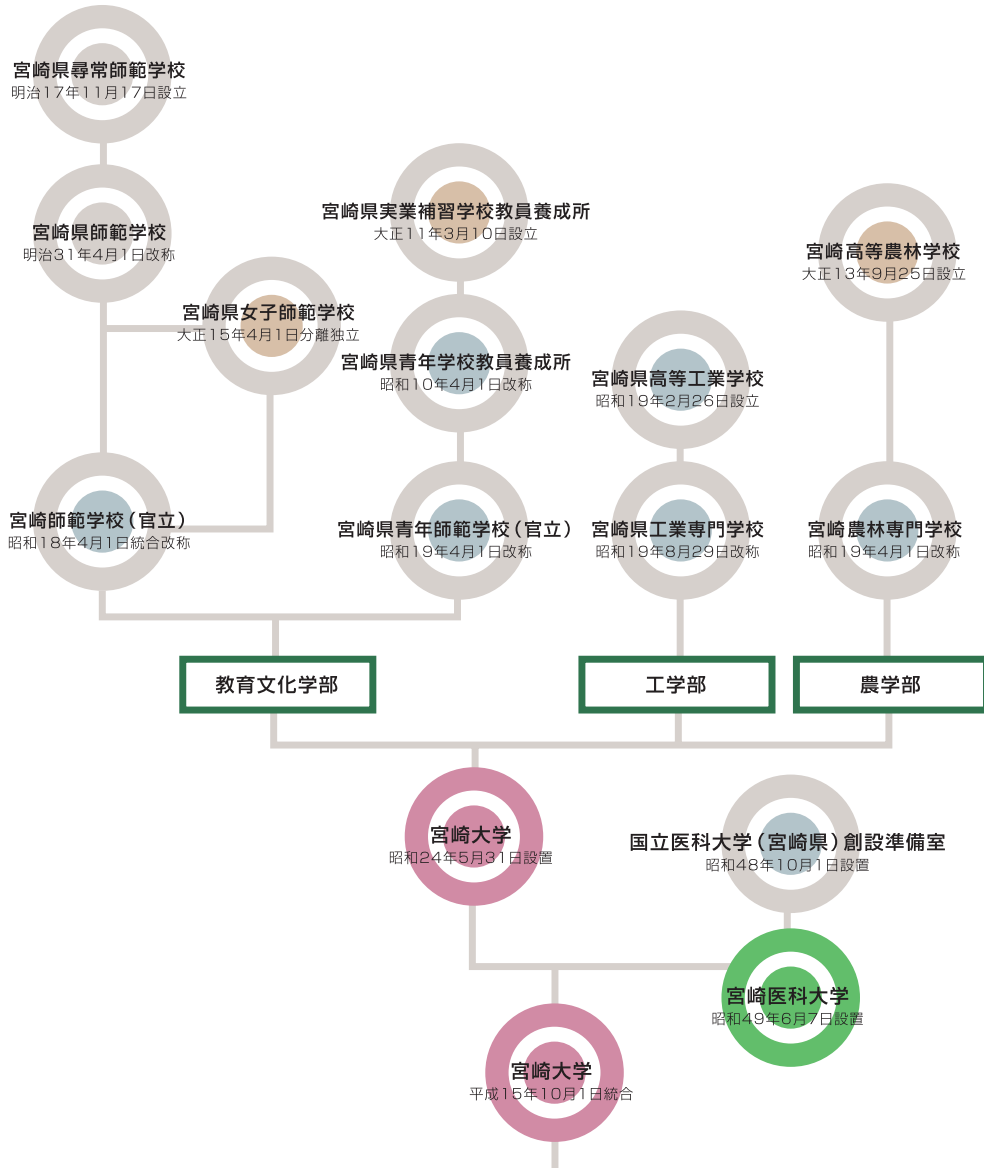
- 一 空高く 神々の里 ^{ひむか}ここ日向
青島望むこの台地 ^{まなびや}緑茂れる 学舎で
先人の輝く轍 ^{わだち}踏みしめて
未来に架ける若人の ^{みちしるべ}夢と希望の道標
宮崎大学
- 二 日向灘 ^{ひゅうがなだ}浜木綿の ^{はま}顔色 暖かく
^{きら}煌めく白い波のごと ^{このはな}心優しく清らかに
^{はぐく}木花の風土が育む命愛し
真理を求め 学びゆく 夢と希望の道標
宮崎大学
- 三 ^{やまなみ}山脈の ^{おびすき}美し姿 飲肥杉の
^{てんくう}天空さして在るごとく 理想を高く意志強く
時を翔け自由を旅する 鳥のように
世界に広く羽ばたける 夢と希望の道標
宮崎大学

■ 年間スケジュール

4月	入学式 オリエンテーション 前学期授業開始 新入生歓迎祭
5月	
6月	
7月	前学期定期試験
8月	夏季休業 進学説明会
9月	
10月	後学期授業開始
11月	大学祭
12月	冬季休業
1月	
2月	後学期定期試験
3月	卒業式・修了式 春季休業

※変更となる場合もあります。

沿革



国立大学法人宮崎大学 (平成16年4月1日設置)

- 教育文化学部**
 - 学校教育課程
 - 地域文化課程
 - 生活文化課程
 - 社会システム課程
 - 附属小学校
 - 附属中学校
 - 附属幼稚園
 - 附属教育実践総合センター
- 医学部**
 - 医学科
 - 看護学科
 - 医学部附属病院
- 工学部**
 - 材料物理工学科
 - 物質環境化学科
 - 電気電子工学科
 - 土木環境工学科
 - 機械システム工学科
 - 情報システム工学科
- 農学部**
 - 食料生産科学科
 - 生物環境科学科
 - 地域農業システム学科
 - 応用生物科学科
 - 獣医学科
 - 附属自然共生フィールド科学教育研究センター
 - 附属動物病院
 - 附属農業博物館
- 大学院**
 - 教育学研究科(修士)
 - 医学系研究科(修士・博士)
 - 工学研究科(修士)
 - 農学研究科(修士)
 - 農学工学総合研究科(博士後期)
- 別科**
 - 附属図書館
 - 安全衛生保健センター
 - 学内共同教育研究施設
 - 産学連携センター
 - 教育研究・地域連携センター
 - フロンティア科学実験総合センター
 - 総合情報処理センター
 - 国際連携センター

University of M

宮崎大学の教育の特色

宮崎大学では、生命科学や環境保全の科学に親しむと共に、自然、或いは地域からも色々なことを学ぶという事を目標に、教育方法にも特色を出しています。大学の全学生が関わる共通教育の中には、人生設計に関しキャリアデザインを学ぶ科目、或いは地域宮崎を学ぶ科目などを充実させ、学生が多様な社会の中で、自らの道を考えていけるような教育を行っています。その中には、学生グループに対して、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」と銘打って、学生自らが大学及び地域を活性化するプロジェクトを企画し、運営、管理を行うような事業も進めています。また、各学部、あるいは大学院研究科で行う専門教育では、高度技術者や研究者の養成を目指し、学部などの特徴を出せる科目を多く取り上げ、宮崎大学ならではの教育が出来るようにしています。

この様な教育環境の中で、宮崎大学は表に示すような幾つかの特徴ある教育プロジェクトを実施しています。特に、特色ある大学院教育や、医療人養成推進プログラムとして、国から大きなプロジェクト（一般にはGPと言われているプログラムです）を任せ

ています。更に、技術者教育に関しては、国際的にもその教育効果が保証されるJABEEという認証を受けている学科も多くあります。これに関しては更に国の政策である実践型専門技術者養成プログラムとも連携を図っています。また、人獣感染症や植物遺伝に関わる分野については生命科学の観点から教育を行い、更に、環境負荷低減のための開発技術者の養成も学部間の協力の下、教育体制としても組み込まれています。

宮崎大学の教職員は常に、教育理念に沿った教育をどの様に行うのか、問題点をどの様に改善するのかという意識を持って教育活動に当たっており、同時に学生の皆さんの意見も積極的に取り入れるようにしています。常に前に向かった姿勢を持ち続ける事がこれからの宮崎大学の教育を一層良くするための責務と考え、教職員、学生一緒になって新しい宮崎大学を作って行こうとしています。

宮崎大学の教育プロジェクト

平成19年現在進行中

研究課題名等	研究種目等	期間	学部等
国公私立大学を通じた大学教育改革の支援	※1		
臨床研究と展開医療を融合する教育拠点	魅力ある大学院教育イニシアティブ	2006-2007	医
産婦人科医・小児科医が連携した医師養成プログラム	地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム	2006-2008	医
JABEE (ジャビー)	※2		
工学部 土木環境工学科	土木および土木関連分野	2004-	工
工学部 物質環境化学科	化学および化学関連分野 (応用化学コース)	2005-	工
工学部 電気電子工学科	電気・電子・情報通信およびその関連分野	2005-	工
農学部 応用生物科学科	農学一般関連分野	2005-	農
工学部 機械システム工学科	機械および機械関連分野	2006-	工
工学部 情報システム工学科	情報および情報関連分野	2006-	工
特別教育研究経費			
人獣共通感染症教育モデルカリキュラムの開発	教育改革	2005-2009	農、医
実践型専門技術者を育成する学部教育の充実	教育改革	2005-2007	工
遺伝資源専門技術者養成モデルカリキュラムの開発	教育改革	2006-2009	農、FSRC

(FSRC: フロンティア科学実験総合センター)

※1: 大学における学生教育の質の向上を目指す特色ある優れた取組をサポートする文部科学省のプログラムで、GP (Good Practice) と呼ばれている。

※2: 日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されたことになる。

宮崎大学の研究の特色

本学は平成18年度に当面の研究戦略を定め、生命科学・環境科学・エネルギー科学を研究の3本柱として、それぞれについての重点領域を定めて、研究を推進しています(下図参照)。

本学では21世紀COEプログラムで生理活性ペプチド研究が推進されてきましたが、事業修了にともない、更なる発展を目指して研究を続けています。また、本学では平成15-19年度地域結集型共同研究事業として、機能食品によるがん予防研究が医・農連携により進行しています。この2つの大型プロジェクトを結ぶ研究として、フロンティア科学実験総合センターを拠点として、学部横断的な生理活性物質の構造・機能解析研究が特別教育研究経費を受けて推進されています。この領域の人材育成について、大学院医学系研究科で「臨床研究と展開医療を融合する教育拠点」プログラムが平成18-19年度「魅力ある大学院教育」イニシアチブ(いわゆる大学院GP)に採択されています。

地域課題であるバイオマスの処理と有効利用については、都市エリア産学官連携促進事業として都城盆地エリアでのバイオマスエネルギーの高度利用についての研究が平成16-18年度に、また県北臨海エリアでは海洋性バイオマス活用技術についての研究が平成17-19年度に展開されています。平成18年度からは大学と県の連携融合事業として、

特別教育研究経費によるバイオガスプラント研究がスタートしています。さらに、石油に依存しないエネルギーの創成をめざして、エネルギー発生及び変換保全に関連する機能性材料創出やナノテクノロジーあるいは光科学に関する研究について、工学部を中心に、CRESTなどの大型研究費によるプロジェクト研究を推進しています。このような環境・エネルギー科学における学際研究を担う人材育成を目指して、平成19年度には農学工学総合研究科(博士後期課程)が設置されました。

平成19年は高病原性鳥インフルエンザの発生で宮崎の地名が世界に知られましたが、迅速且つ適切な対応で他への拡散を封じ込めることができました。感染症がグローバルな問題であることを非常に身近で知らされました。本学では、すでにこのような事態を予測して医・獣医が連携して人獣共通感染症の研究に取り組んでおり、特にO-157などの腸管出血性大腸菌やその他多数の病原体のゲノム研究プロジェクトを学際的に進めています。平成17年度からは、国の新興・再興感染症ネットワーク構築計画の一環として、特別教育研究経費により、獣医学科で「人獣共通感染症教育モデルカリキュラムの開発」が医学部との連携で進行しています。

また本学では基盤的研究を重視しており、平成14-18年

宮崎大学の研究戦略

宮崎大学が研究を通じて実現を目指す社会

- ・健やかな心と体を育成する社会
- ・安心・安全な生活をサポートする社会
- ・環境保全を優先し、かつ地域エネルギー利用の進んだ社会

重点研究領域

I 生体制御・防御機構と環境
—生理活性物質と機能性食品の探索—

II バイオマス資源の生産・有効
利用による環境改善・修復に関
する研究と技術開発

III 再生可能エネルギー変換・貯蔵
技術および低環境負荷型生活様式
に関する研究

継続中の
プロジェクト

【生命科学分野】

- 新規生理活性物質探索と生体制御・防御機構解明(医・農・FSRC)
- 食機能による疾患予防基盤技術創出(医・農・工)
- ゲノム・ポストゲノム解析による疾病対策研究(医・FSRC・農)
- 人獣共通感染症に関する研究(農・FSRC・医)
- スポーツメディカルサポートシステムの構築(医・工・教)

【環境・エネルギー分野】

- 農林畜産廃棄物利用地域資源循環システム(農・工)
- 海洋性バイオマス活用技術(工・農)
- アジア地域における砒素汚染対策に関する研究(工・医・農・教)
- 高機能ナノチューブ材料・多層超薄膜半導体の創製とエネルギー交換技術への応用(工)
- 極短波長光源の計測および環境調和型プロセスへの応用(工)

新規計画
プロジェクト

- 長寿科学と生命科学倫理(医・FSRC・農・教)
- 機能性食品開発(農・医・工)
- 動植物バイオリソース研究(農・医・FSRC)

- 低環境負荷・資源循環型生物生産技術(農・工・教)
- 環境負荷物質の分解技術(農・工)

- 環境共生・持続発展型地域社会を実現する低環境負荷型生活環境の整備(工・農・教)
- 光エネルギー制御・変換技術を利用した再生可能エネルギーシステムの構築(工)

予想
研究成果

疾患の新しい予防・診断・
治療技術の創出

安全・安心な食料生産と
バイオマスを活用した
環境保全技術の実現

宮崎の自然を活用した
エネルギー生産と省エネ・
安全な生活環境の実現

実現のために

世界に向けた
研究成果の発信

- ・国際的研究拠点形成
- ・国内外研究機関との連携
- ・国際および地域への貢献

度に採択されたナショナルバイオリソースプロジェクト:ミヤコグサ・ダイズリソース拠点事業は、大学のサポート体制が高く評価され、平成19年度からの第二期の継続が認められております。本学はその他にも微生物や動植物など多様な生物遺伝資源を保有しており、これらについてデータベース化を推進しています。平成18年度からは本学と京都工芸繊維大との連携による特別教育研究経費「遺伝資源専門技術者養成モデルカリキュラムの開発」が開始され生物遺伝資源を扱う人材養成にも力を注いでいます。

本学の研究成果を活かした国際連携研究としては、アジアの地下水砒素汚染対策研究や、環境に配慮した魚介類養殖技術の研究、キチン・キトサンなど海洋性バイオマスを利用した微量金属分別回収技術などが特筆すべきものです。これらの研究はいずれも国内外で高く評価されており、いずれも競争的外部資金など大型のプロジェクト研究費を獲得しております。

宮崎大学の大型研究プロジェクト

地域連携

(平成19年現在進行中 予算総額が2,000万円以上のもの)

研究課題名等	研究種目	研究期間	学部等
生理活性物質の探索			
生体活性物質の構造・機能解析のための学部横断的研究の推進	特別教育研究経費(研究推進)	2005-2009	医、農、FSRC
新規摂食調節物質グレリンとニューロメジンの基礎的、応用的研究	NARO 新技術・新分野創出のための基礎研究推進事業	2003-2007	農
食の機能を中心としたがん予防基盤技術創出			
	JST/宮崎県 地域結集型共同研究事業	2003-2007	医、農
注射に代わる経鼻投与デバイスを用いた糖尿病と肥満に対するペプチド医薬品の開発			
	JST 重点地域研究開発推進事業	2007-2009	医
遺伝子と疾病			
小胞体ストレス応答機構の制御による神経細胞死防御法の開発	基盤研究(A)	2005-2007	医
骨粗鬆症治療戦略の開発と応用	保健医療分野における基礎研究推進事業	2006-2010	医
人獣共通感染症			
腸管出血性大腸菌を中心とした腸管感染菌の病原性ゲノム基盤の解明と臨床応用	特定領域研究	2005-2009	FSRC, 医
人獣共通感染症教育モデルカリキュラムの開発	特別教育研究経費(教育改革)	2005-2009	農、医
生物遺伝資源			
ナショナルバイオリソースプロジェクト(ミヤコグサ・ダイズ遺伝資源の収集・保存・提供)	文科省科学技術振興費	2007-2011	FSRC
光学的手法による和牛肉品質の評価技術とその応用	AFFRC 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	2004-2007	農
遺伝資源専門技術者養成モデルカリキュラムの開発	特別教育研究経費(教育改革)	2006-2009	農、FSRC
最先端クルマエビ養殖技術の構築-安全・安心・健康なエビを作る-	AFFRC 生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業	2006-2010	農、工
バイオマス/資源再利用			
高齢者QOLの向上に貢献する海洋性バイオマス活用技術の創出(県北臨海エリア)	文科省 都市エリア産学官連携促進事業	2005-2007	工、農
バイオマスの高機能化とめっき廃液の最適な資源循環システムの構築	環境省 廃棄物処理等科学研究費補助金	2005-2007	工
ゴーヤ種子由来坑ドレクテンを用いた血液検査試薬の開発と新規医薬品への応用	JST 重点地域研究開発推進事業	2006-2008	農
農林畜産廃棄物利用による地域資源循環システムの構築			
鶏ふん焼却灰からのリン回収・有用物活用の技術開発	特別教育研究経費(連携融合事業)	2006-2010	農、工
	農林水産省「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」	2007-2009	工
ナノテク/光科学・材料科学			
文部科学省リーディングプロジェクト(EUV光源の絶対スペクトル計測の研究)	文科省科学技術振興費	2003-2007	工
光ファイバーセンサーの開発			
	JST 重点地域研究開発推進事業	2005-2007	工
真空紫外光で拓く環境調和型プロセスの創成	特別教育研究経費(研究推進)	2006-2008	工
ナノ制御した置換型金属酸化触媒表面における選択酸化反応評価	JST CREST	2004-2008	工
高機能ナノチューブ材料の創製とエネルギー交換技術への応用	JST CREST	2002-2008	工
国際連携			
マリンバイオマスを活用した貴金属のゼロエミッション分離回収システムの構築	JSPS 二国間交流事業(オーストラリアとの共同研究)	2006-2008	工
インドUP州における地下水砒素汚染の総合的対策	JICA 草の根技術協力事業	2007-2009	工、医

(FSRC:フロンティア科学実験総合センター)

国際交流 世界を見れば、もっと自分も見えてくる。

宮崎大学は、国際事業として①学術交流、②学生交流、③国際協力、④地域の国際化への貢献の4つの柱を据え、地理的・歴史的な関係から、東アジア・東南アジアの大学等を中心に、活発な交流を展開しています。

◎研究者の海外派遣・受入れ

文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構（JICA）及び各種機関の助成等により、年間約300人の研究者が海外に派遣されており、外国人研究者も積極的に受け入れています。

◎国際協力

本学ではJICAやNGO等と連携しながら、アジアやアフリカ、中南米等の開発途上国に対して積極的な国際協力を展開しています。

◎国際交流協定

全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、31の国や地域の大学等と交流協定を締結しています。うち、16大学とは学生交流覚書（授業料等相互不徴収）を締結し、活発な学生交流を図っています。

◎留学生の受入れ

25カ国から国費・私費・政府派遣・県費の留学生84名を受け入れ、教育研究を行うと共に、生活支援、学内での交流事業等を実施し、諸外国の指導的人材の育成に努めています。

◎主な学生交流覚書締結校と平成18年度海外派遣実績一覧

国名等	大学名	募集学部等	派遣学生	実績
中国	南京農業大学	全学部	2名以内	1名
中国	上海交通大学	全学部	1名以内	1名
台湾	東呉大学外国語文學院	教育文化学部	2名以内	2名
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学	教育文化学部	2名以内	2名
ニュージーランド	オタゴ大学教育学部	教育文化学部	3名以内	1名
インドネシア	ブラウイジャヤ大学工学部	工学部	2名以内	1名
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部	医学部	4名以内	4名
タイ	チュラロンコン大学獣医学部	農学部	2名以内	1名

※その他派遣が可能な大学：青海大学畜牧獣医科学院（中国）、ボゴール農業大学・ハサヌティン大学（インドネシア）、嶺南大学校、順天大学校（韓国）、ハノイ農業大学（ベトナム）、フィリピン大学ロス・バニョス校（フィリピン）、プエンスアイレス大学農学部（アルゼンチン）



◎学生の海外派遣

宮崎大学では、学生交流覚書を締結している大学に、学生を派遣しています。協定による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。また、留学先で取得した単位を宮崎大学の単位とすることができます。

◎短期学生交流の実施

宮崎大学では、海外の協定校と短期学生交流を実施しています。学生が相互訪問し、ホームステイ等を通じ、お互いの文化を学び、交流を深めています。また、「異文化交流体験学習」として教養科目の単位が認められています。

◎地域社会の国際化への貢献

本学の外国人留学生は、県内の小中学校における各種国際交流事業や、国際交流団体が開催する国際理解事業等に参加し、地域社会の国際化へ貢献しています。



地域貢献 情報発信の場として、地域へ貢献する。 【宮崎大学サテライト・オフィス】

宮崎大学サテライト・オフィスは、地域社会への情報発信の場として、また地域社会の人々と交流しニーズを捉えるアンテナとして、さらには他の教育研究機関との交流・連携や産学官交流・連携の場として、機能することを目的に、平成16年3月、宮崎市の中心地に位置するカリーノ宮崎：8階に設置されました。

サテライト・オフィスには、パソコン等を備え、スタッフが窓口での対応にあたる他、教育・研究成果の公開・発表、入学案内や各種催し物の案内、公開講座、各種相談窓口の設置（技術、教育、健康など）、他大学等と連携した各種コンソーシアム事業等を展開しています。



University of Miyazaki

教育文化学部

教育問題。グローバル化。バリアフリー。
社会はさまざまに変化し、利点はもちろん、
ひずみも生み出しています。
そんな中、本当に必要とされるのは、
物事に対して正しい判断ができ、
正しく伝えることのできる人材ではないでしょうか。
「教育文化学部」では、世界の多様な文化を知る、
学んだことを子どもたちに正しく伝える、
そんなエキスパートを育てていきます。
近い将来、あなたが社会のベクトルを、
よりよい方向へ向けることができるかもしれません。



「知る」大切さ。

()内の人数は入学定員を示します。

教育文化学部 入学定員《230人》

＜アドミッションポリシー＞

教育文化学部では、日本の将来を担う子どもたちを教育する教員を養成し、また、日本・アジア・欧米の言語や文化、芸術や健康・生活環境といった生活文化の質の向上、法律政治・経済・福祉などの社会のシステムに関する教育と研究を行っています。したがって、各課程の教育を受けるにふさわしい基礎学力を備えるとともに、向学心、職業意識、社会への関心の高い人を受け入れることを目指して、多様な入学者選抜を行います。

◎学校教育課程 入学定員《100人》

学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題、学校で何をどのように教えるか等についての基礎的な知識を身につけ、今日の多様化した子どもたちと個性豊かに情熱をもって接することができる、感性豊かで質の高い教員の養成を、「初等教育」(55人)、「中学校教育」(35人)、「障害児教育」(10人)の3つのコースで行います。

◎地域文化課程 入学定員《30人》

言語学・文学・思想・歴史学・地理学・考古学などの多角的視点から、日本・アジア文化、ヨーロッパ・アメリカ文化、文化に関わる環境、外国語コミュニケーションを学ぶ課程です。

◎生活文化課程 入学定員《40人》

現代の生活を多角的に捉え、未来に向かってより質の高い文化を一般生活に根づかせていくために、文化振興や生涯学習などに貢献できる人材の養成を「芸術文化」(15人)、「生活健康」(10人)、「生活環境」(15人)の3コースで行います。

◎社会システム課程 入学定員《60人》

「社会システム」とは世の中のしくみのことです。世の中のしくみを研究する学問分野を社会科学といいます。社会科学には政治学・法学・経済学・社会学・地理学などがあります。社会システム課程は、社会と地域の将来像を構想・立案でき、社会と地域の行政や産業の将来を主体的に担う能力を養うために、社会科学全般を教育・研究します。

「伝える」大切さ。



附属学校



附属教育実践総合センター

「教育実践研究部門」では「学ぶ力」「生きる力」を高めるための学習カリキュラム及び指導法の開発、「教育情報科学研究部門」ではIT時代の到来を踏まえ、大きく変化する新しい時代の学習・教育環境の構築、「教育臨床研究教育部門」では学校不適応等、子どもが抱える様々な問題に対応できる力量をもった学生、現職教員の養成に努めています。

附属小学校

学部と一体となった体制で小学校教育の研究と実践、さらには教育実習の指導に努め、本県教育の維持向上の一翼を担っています。「確かな学びのある授業創造～豊かに表現し合い、高め合う学習の展開」を研究テーマに実践的研究を行っています。

附属中学校

昭和22年、宮崎師範学校の附属中学校として開設された伝統のある学校です。「気品を保ち、社会の変化に主体的に対応できる個性豊かな生徒の育成」を学校の目標とし、「①自発的に学び、真理を探究しよう ②勤労を愛し、お互いに協力しよう ③気品を保ち、健康を増進しよう」を細目として掲げ、活力ある学校づくりを進めています。

附属幼稚園

昭和42年に開設されました。広々とした園庭には、数十年を経過した銀杏や楠等が大きな枝を広げ、四季折々の豊かな自然環境を日々の保育に生かしています。「生き生きと活動できる子どもを育てる」を教育目標とし、子どもの自発的な活動を重視しながら、人とかかわりを大切にした保育に努めています。



「ありがとう」と

医学部

医学部は、昭和49年に設立された宮崎医科大学を前身とし、平成15年10月に宮崎大学と統合し、宮崎大学医学部となりました。

医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。

University of Miyazaki

医学部

医学、看護学、医療技術はますます専門化、高度化し、それにともない医療ニーズも多様化しています。しかし医療がどれだけ発達しても、いちばん大切なのは、人と人とのコミュニケーションではないでしょうか。

患者さんに笑顔で「ありがとう」と言ってもらえる医師、看護師になるために。

医学部では、医療に関する知識や技術の修得を目指すだけでなく、人とのつながりを大切にする心を学びます。

大学院では、医学・医療の分野において、社会に貢献できる高い研究能力をもった人材を育成します。



言ってもらえる職業。



◎ **医学科** (入学定員100人)

＜アドミッションポリシー＞

医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師及び医学研究者の育成を目指しています。本学科の卒業生は、医師として、医学研究者として、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。

求める人材 **!**

患者の痛みや苦しみに共感できる豊かな人間性を有している人

協調性・コミュニケーション能力を持っている人

医療人になろうという目的意識を持ち、医学を学ぶために必要な幅広い基礎学力と応用能力を有している人

自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力を持っている人

◎ **看護学科** (入学定員60人)

＜アドミッションポリシー＞

看護学科は、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。本学科の卒業生は、豊かな人間性を有した看護師、保健師、または助産師として、人々の健康と生活への援助を実践し、看護の質の向上と看護学の発展並びに社会の福祉に貢献しています。

求める人材 **!**

生活している人々の身体的・精神的健康に関心が持てる人

人の気持ちに共感でき、コミュニケーションがとれる人

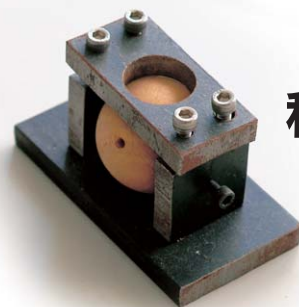
看護職者になろうという目的意識を持ち、看護学を学ぶために必要な基礎学力を有している人

自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力を持っている人

University of Miyazaki

工学部

現代の急速な発展を支えているのは、工学の高度な技術といっても過言ではありません。「工学部」では、基礎学力と応用能力を身につけるとともに、豊かな人間性を育むことを目的としています。研究面では、地域の産業や文化に貢献し、世界に通じる学術研究基地としての役割も果たしています。材料物理、物質環境、電気電子、土木環境、機械システム、情報システム。それぞれの分野でスペシャリストになって、より豊かな未来を。新時代を開拓するのは、あなたです。



科学や技術

工学部 《入学定員380人、うち編入生10人》

<アドミッションポリシー>

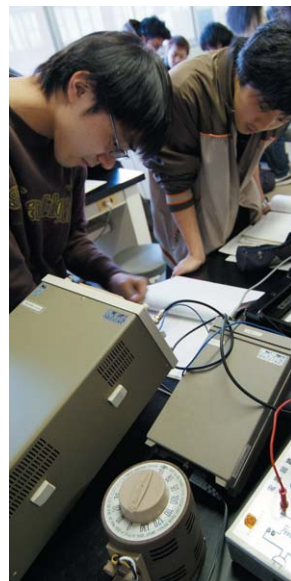
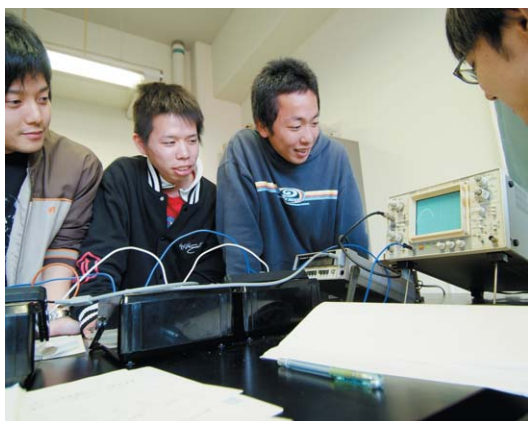
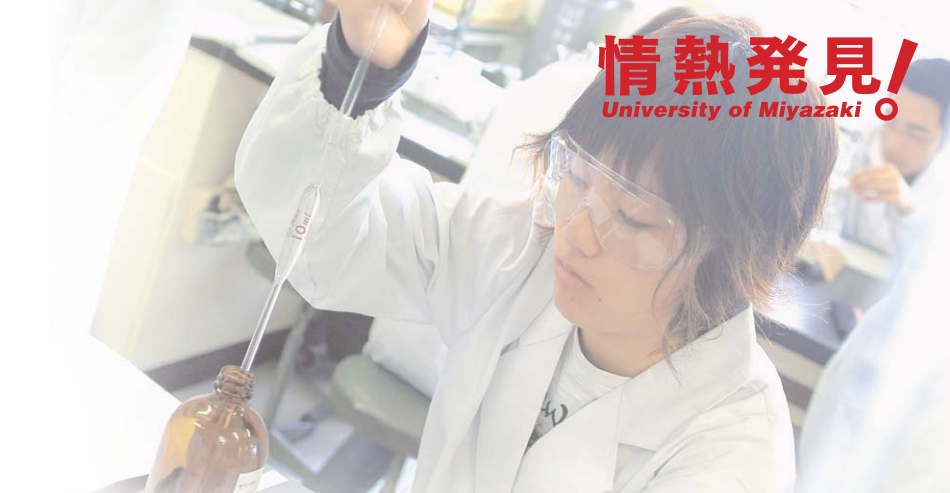
本学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身につけ、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。さらに、本学部の各学科ではそれぞれがアドミッションポリシーを持ち、それぞれが期待する人材を求めています。

◎材料物理工学科 (入学定員49人)

現代社会の急速な発展を支えているのは、現代物理学を基盤とした高度な科学です。本学科では、このような先端技術を支える物理的知識を基礎から理解し、応用して社会の各方面で活躍できる人材や、新しい先端技術を切り開くことができる人材の育成を目指しています。



で、暮らしを豊かに。



◎物質環境化学科 (入学定員68人)

環境、エネルギー、資源、食料など21世紀に人類が直面する地球規模の諸問題を解決するため、化学物質が持つ無限の可能性を開拓すると同時に、その開発や利用において実用性だけでなく自然界や生体への影響、省エネルギーやリサイクルといった地球環境との調和を重視した物質の生産および環境保全の化学を研究しています。本学科では、JABEEの認定を受けた技術者教育プログラムに基づき、地球環境問題に対する「物質環境化学」の役割と使命を教育し、地球環境や生態系に調和した新素材の開発や物質の利用及び循環・再生技術などに係わる化学の基礎知識と応用能力を有する創造性豊かな人材の育成を目指しています。

◎電気電子工学科 (入学定員88人)

急速に進みつつある高度最先端技術における先駆者の養成を目指して教育・研究を行っています。このため基礎から実用性の高い応用科目までをバランスよく配置したカリキュラムとなっています。基礎科目として、数学・物理学・電磁気学・電気回路などの知識を正しく理解した上で、固体物理学、電子回路、コンピュータアーキテクチャ、制御、レーザー、プラズマなどの専門科目を勉強し、新しい機能素子、超高密度集積回路、コンピュータシステム、制御システム、新しいエネルギーの発生や輸送についての研究へと発展させていきます。

◎土木環境工学科 (入学定員58人)

本学科は、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤の充実に貢献できる高度技術者(Active, Responsible, Creative and Humane Engineer)の育成を目指しています。このため、平成16年にJABEE認定された教育プログラムに基づき、技術者としての能力および土木環境分野における基礎能力を養成する教育研究を実施しています。

◎機械システム工学科 (入学定員49人)

21世紀の工業技術者には、専門知識を身につけるだけでなく、技術者としての倫理観や地球環境問題の理解など多面的な能力が要求されています。本学科は、宮崎における自然環境の恵の中で「人にやさしく」かつ「自然と調和できる」機械を生み出す素養をもった創造性豊かな技術者の育成を目的としています。そこで、人との共存を考えた機械を作るための設計に関する知識、並びに自然と調和できる機械を作るためのエネルギー問題を考える知識を身につける教育に重点をおいています。

◎情報システム工学科 (入学定員58人)

現在の情報技術の進歩は目覚ましいものがあり、産業界や経済界の急速な発展を支えています。本学科では、このような急速に進展しつつある高度情報社会の各方面で幅広く活躍できる人材を育成することを教育目標とし、情報工学の高度な専門知識と現実社会での問題解決能力とを兼ね備えた人材の育成を目指しています。

University of Miyazaki

農学部

農学と一言で表しても、そのカテゴリーは広範囲で多様です。水や土の研究から、環境問題まで。遺伝子レベルから生態系まで。人間のことも含めた地球環境すべてが、農学の研究対象といえるでしょう。そして、どの分野を学ぶとしても「いのち」の大切さ、素晴らしさと出会うことができます。あなたの興味があることを、自由な発想で研究してみましょう。毎日さまざまな発見があり、その発見のたびに、人が、地球が好きになる。それが農学部です。



いのちに触

農学部

<アドミッションポリシー>

農学部では、水・土レベルから国土・地球レベルまで、陸生生物から水生生物まで、遺伝子レベルから個体・集団・生態系レベルまで、動植物・微生物生産から食品加工・流通まで、さらに純粋な基礎科学領域から生命科学分野・工学的分野・社会科学的分野までも含む生物関連の総合的な応用科学領域の教育と研究を行っています。そして「地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指す」をスローガンに、より柔軟に幅広く農学の専門分野を身につけさせ、主体性と創造性に富み、個性豊かで、国際的にも通用する人材の育成を目指しています。

地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指します。

21世紀の農学の使命は、わたしたち人類の生存と他の生物との共存・共生を図りながら、有用な生物資源の生産・開発・利用を行うことによって、地球規模での食料問題と環境危機を克服することです。日本の食料生産基地に位置し、今日までの農業発展に貢献してきた宮崎大学農学部は、「食料・環境・生命問題の解決」と「平和で潤いのある地域社会の構築」という人類共通の目標を掲げ、その実現のために平成12年度に組織と教育の両面の改組・改革を行いました。今後、日本だけでなく、アジア、アフリカ、中南米など世界の農業発展に向けての一層の学術貢献と、主体性と創造性に富んだ個性豊かな人材を輩出する責務が果たせると信じています。



れ、いのちを学ぶ。

◎食料生産科学科 (入学定員60人)

わたしたち人類の幸福と繁栄は、人の命を支える食料なしでは実現しません。食料の安定した生産が人間のさまざまな活動を可能にして、文明や文化の発展につながってきているのです。生物の生産物を食料として利用している人類は「生物生産をいかに行うか」という課題をいつも抱えているのです。この課題に取り組むことは、農学の重要な使命の一つです。本学科は、植物と動物を対象にして「安全で高品質な生産物を、いかに効率的に、環境負荷を少なく、安定的に生産するか」ということについて教育と研究を行い、これからの食料生産システムの構築に向けて学術的・教育的貢献を行うことを目指しています。



◎生物環境科学科 (入学定員65人)

私たち人類が生存するためには、地球環境を保全しながら生物を持続的に生産しなくてはなりません。そこで、私たちの学科では地域に根ざしながら、地球規模での生態系や自然環境に対する教育・研究を行い、環境に優しく持続性のある生物生産とその有効利用のための技術の確立を目指しています。おもに、森林・草原・草地、河川、湖沼、海洋などを教育・研究のフィールドとしています。



◎地域農業システム学科 (入学定員55人)

皆さんは、「環境破壊」、「食糧やエネルギーの不足」などの言葉をニュースや新聞でよく見聞きしていると思います。これらは、21世紀を生きる私たちにとって解決しなければならない重要な課題となっています。私たちの学科は、自然環境と人間の生存環境が共存できる農山村地域を構築するための総合的な専門教育を通して新世紀の諸課題の解決に取り組んでいます。



◎応用生物科学科 (入学定員55人)

応用生物科学科は、地域や国際社会がかかえる生命・食料・環境問題に応えるため、動物、植物、微生物並びにそれらを利用した食品、また、それらを育む土壌・生態系が持つ機能を生化学的、遺伝子工学のおよび食品機能学的に解明するための教育研究を行っています。本学科の特色として、農芸化学を中心として畜産製造学、植物遺伝育種学、水産科学の関連した分野の幅広い知識を学ぶことが出来ます。



◎獣医学科 (入学定員30人)

皆さんは獣医学という言葉を知るとどのようにイメージされますか？おそらく多くの方々は、すぐに動物のお医者さんを連想すると思います。ところが実際は、獣医学はそれだけでなくもっと幅広い分野を含んでいます。動物と人との健康・福祉の向上のために、動物の病気の診断・予防・治療などはもとより、安心できる質の良い食糧の提供、地球全体の野生動物をはじめ生物資源の保護、生命科学研究といった多彩な活動を含み、国の内外からは、社会や科学に貢献することが期待されている学問です。私たちは、畜産県である宮崎の特性を生かしながら、産業動物や伴侶動物に対する医療や福祉、人と動物に共通する病気の撲滅(鳥インフルエンザやBSEなど)、アカウミガメや野生馬などの調査や保護、アジアに目を向けた国際交流などの活動を通して、専門科目ごとに設置されている11講座と附属動物病院が、他学科と協力しながら、獣医学を実践しています。特に、平成17年度からは、『人獣共通感染症教育プログラム』を開設し、人と動物に共通する病気の撲滅に一層貢献したいと考えています。

◎附属自然共生フィールド科学教育研究センター

平成13年度に、自然共生を目標に総合的な農学教育・研究を行うため、自然共生フィールド科学教育研究センターが発足しました。そこには、共生システム農学、食総合科学、環境科学の3部門があり、木花フィールド(農場)、田野フィールド(演習林)、住吉フィールド(牧場)及び延岡フィールド(水産実験所)の4附属施設が、フィールドセンターの教育・研究を支えています。

◎附属動物病院

犬や猫などの病気の動物が大学周辺のみならず県外からも診察を受けに訪れ、地域動物医療の中心となっています。また、畜産地帯に位置するため、和牛などの産業動物医療にも力を入れ、地域の診療獣医師の相談・研修の施設としての役割も担っています。

◎附属農業博物館

農業をテーマにした博物館は、全国でも珍しく、国立大学法人の中では唯一のものです。館内には、農業、林業、畜産業、水産業などに関する貴重な標本(動物・植物・土壌など)や、大学の最新の研究成果をわかりやすく紹介した展示があります。

◎畜産別科

高等学校卒業またはそれ以上の学力のある者が、農学部附属する牧場(住吉フィールド)に周年宿泊して1年間修業する課程で、広く畜産業における後継者や技術指導者を養成します。本別科の所定の単位を取得した者には、家畜人工授精師の資格が与えられます。

◎地域農林水産業教育研究センター

当センターは、地域に開かれた農学部の窓口として、学部における教育・研究の活性化、学部へ寄せられる多様な要望に応え、地域における農林水産業の発展に寄与するため、学部内措置により設置されています。

Graduate school

もっと上の自分を目指して。宮崎大学の大学院

農学工学総合研究科 平成19年4月設置

博士後期課程 《入学定員16人》

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。このような人材養成によって、21世紀の喫緊の課題である低環境負荷・持続型生産システムの構築、持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、生物及び微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発、地域バイオマス資源の有用物質への変換、ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生、自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築等の課題解決に貢献します。

専攻名(学生定員)	内容	教育コース名
資源環境科学専攻(4人)	資源の枯渇、自然及び生活環境の悪化、食料危機などの人類が直面しつつある課題に取り組むために、資源の有効利用と資源循環による環境負荷の低減を基調とした、安全で活力ある循環型社会の構築に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。	①環境共生科学 ②持続生産科学
生物機能応用科学専攻(4人)	動植物、微生物及び水産生物資源が有する諸機能の解明と、それに基づいた知見により、本地域及び国際社会が抱える食料・エネルギー・環境問題に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。	③生命機能科学 ④水域生物科学
物質・情報工学専攻(8人)	環境調和・循環型及び高度情報化社会の課題に取り組むために、環境調和型新材料の構築、エネルギーの変換・解析、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なアルゴリズムとソフトウェアを活用した情報処理技術及び数理モデルの構築に貢献できる高度専門技術者の養成を目的としています。	⑤新材料エネルギー工学 ⑥生産工学 ⑦数理情報工学

教育学研究科

修士課程 《入学定員38人》

学部教育を終えた者(現職教員を含む)を対象として、確かな教育観と幅広い視野を持ち、高度の専門知識、研究力及び実践力を持つ教員を養成します。現職者のリカレント教育の要望に応えるため、①1年次のみフルタイム方式、②夜間方式、③大学院修学休業制度による方式や、eラーニング等、様々な方式を用意しています。また、平成17年度から、長期履修制度も始まりました。

専攻は、学校教育・教育臨床心理・日本語支援教育の3専修からなる学校教育専攻(8人)と、国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家政・英語の10専修からなる教科教育専攻(30人)の2つです。



医学系研究科

医学系研究科は、昭和55年に博士課程、平成15年に医科学専攻修士課程、そして平成17年に看護学専攻修士課程が設置されました。

本研究科は「人間の複雑多様な生命現象を形態学的、生理学的並びに生化学的に研究し、自然環境、社会環境をも研究対象として社会に貢献できる高い研究能力を持つ研究者を育成すること」を使命としています。

社会のニーズに対応するため、秋期入学制度、夜間履修制度、長期履修制度、短縮修了制度、ティーチング・アシスタント制度、リサーチ・アシスタント制度等を取り入れた教育・研究を行っています。



博士課程 《入学定員30人》

研究者養成を主眼とし、医学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。

求める人材

医学・医療の特定の専攻分野において深い学識と研究能力を培い、医学研究者・教育者を志す人

高度専門職業人として先端的医療を実践するために、高度な専門性と研究マインドの涵養を志す人

他分野で培った専門能力を基盤として、生命科学分野での学際的研究を開拓し、人々の福祉と健康増進に寄与することを志す人

修士課程（医科学専攻） 《入学定員15人》

他の学問分野の学部卒業生を幅広く迎え入れ、広い視野に立って精深な学識を修得し、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うことを目的とし、医学の発展と社会の福祉の向上に寄与する人材の育成を使命としています。

求める人材

医学の基本的知識や研究手法を修得することで、これまでに培った専門分野での研究・技術開発に新たな視点から取り組むことを志す人

他の学問分野の専門知識・技術を基盤として、新たな視点で医学・医療、福祉分野での問題解決に取り組むことを志す人

他の学問分野で培った専門知識・技術を基盤として、学際的視点から生命科学の発展に寄与することを志す人

修士課程（看護学専攻） 《入学定員10人》

問題解決能力を有する看護実践者の育成と看護学の教育・研究者の素地育成を目的として、各種の医療機関、保健・福祉施設、行政、教育・研究機関などにおいて、看護実践・指導・研究・教育ができる人材の育成を使命としています。

求める人材

専門職業人として看護実践の質向上を図るために、より高度な問題解決能力や実践成果の検証方法の探究を志す人

看護の分野において、専門的知識と学識及び基本的研究能力を培い、看護領域の教育者・研究者を志す人

他の学問分野で培った専門知識・技術を基盤として、地域の保健・医療・福祉分野での実践、教育、研究の発展に寄与することを志す人

Graduate school

もっと上の自分を目指して。宮崎大学の大学院

工学研究科

修士課程《入学定員114人》

工学研究科は、平成19年度、農学工学総合研究科博士後期課程の設置に伴い、それまでの「博士後期課程」を発展的に解消し、「博士前期課程」を「修士課程」に改称しました。本研究科は、宮崎地域における高度な工学的学術の教育・研究機関として、高度で専門的な科学技術者を育成するとともに、学術研究活動を推進しています。

これまで、博士後期課程からは平成18年度修了の11名を加え合計92名の博士(工学)を輩出し、博士前期課程(修士課程)からは1,868名の工学修士を送り出しました。これらの博士や修士の修了者は、21世紀の科学技術の発展を担う高度な科学技術者・研究者として、地域社会はもとより、国際社会へも一層の貢献が期待されています。

応用物理学専攻 入学定員15人

本専攻では、ミクロからマクロにわたる物質・エネルギー分野の基礎的研究を通して、多様な分野への応用力をもつ高度技術者の育成を目指し、量子物理、材料開発、計数物理、医学物理に関する教育と研究を行っています。未来の研究・開発の担い手として、自らを高める努力を惜しまないバランスのとれた人材育成を重視しています。

物質環境化学専攻 入学定員21人

本専攻では、学部教育の「物質環境化学」を基礎として、地球環境や生態系と調和した材料化学、機能化学、物質化学および生物工学の分野に係わる物質環境化学の専門知識と柔軟な応用能力による専門的な研究開発能力を有し、研究成果を世界に発信できる創造性豊かな技術者・研究者の育成を目指しています。

電気電子工学専攻 入学定員27人

本専攻では、近年のマイクロエレクトロニクスとそれに伴うコンピュータの発展に伴い、電気電子工学も物理、数学などの基礎科学を取り込みながら進歩拡大しています。そこで、電気電子工学の分野を、電子材料、電子システム及び電気エネルギーの3つに分け、各分野の具体的且つ先進的な研究・教育を行っています。

土木環境工学専攻 入学定員18人

本専攻は、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤や生産基盤の充実・改善や、環境保全に貢献できる高度専門技術者の育成を目指しています。このため、建設工学、水環境や廃棄物処理工学、防災、都市計画などの高度な専門知識の修得と研究開発能力の養成に関する教育と研究を実施しています。

機械システム工学専攻 入学定員15人

本専攻では工業の基本である機械装置等の設計・開発の基礎とその応用およびエネルギーの有効利用に関する教育と研究を行っています。その主なテーマは、材料強度学を含む材料力学、加工学・トライボロジーを含む設計工学、内燃機関を主とした熱工学、数値解析を含めた流体工学、機械振動解析や計測・制御などです。

情報システム工学専攻 入学定員18人

本専攻では、並列プログラム言語、情報数理などの情報基礎分野、および知的制御系設計、知識情報処理技術などの情報応用分野に関する研究・教育を行い、より高度な技術と知識の研究・教育を通じて、情報科学・計算機科学・システム工学のより深い知識および広い応用能力をもつ人材の育成を行っています。



農学研究科

修士課程

宮崎大学大学院農学研究科は、専門性の高い農学分野の5専攻(生物生産科学専攻, 地域資源管理科学専攻, 森林草地環境科学専攻, 水産科学専攻, 応用生物科学専攻)を備え、高度で先端的な科学技術を修得できる大学院教育を行います。すなわち、陸域・水圏を問わず、生物生産、生物資源利用、環境保全などに積極的に取り組み、将来の食と健康を担うべき農学分野での高度な専門的技術者・指導者あるいは研究者の育成を目指しています。また、農林水畜産業の生物生産から生物資源の利活用までの探求を通して、地域社会から国際社会まで幅広く活躍する人材を育成します。

そこで農学研究科では以下のような人を積極的に受け入れます。

- 1 農学分野の学部レベルの専門知識を修得し、さらに高度の学究に努めたい人。
- 2 他専門分野で学んだ知識を生かして、農学分野で新たに活躍したい人。
- 3 社会の経験を有し、さらに農学分野の科学知識を深めたい人。
- 4 食料・環境・生命・資源の関連科学分野において、国際的に活躍したい人。

生物生産科学専攻 入学定員16人

学位: 修士(農学), 修士(学術)

本専攻では、植物と動物を対象に「いかに生物生産を行うか」という農学の基本的課題の一つに焦点を当てた専門教育を行います。これからの動植物の生産は単に多収を目的とするだけではなく、生産過程の効率化と環境負荷の低減や生産物の安全性・品質の向上・安定的供給などが社会的に強く望まれています。このような観点から植物生産および動物生産の両分野の専門教育を深化させ、また、両分野を有機的に連携した新しい生物生産システムを志向する教育研究を行います。

地域資源管理科学専攻 入学定員12人

学位: 修士(農学), 修士(学術)

本専攻では、農林業生産の基盤となる水資源や土地資源、機械や施設構造物に関する技術資源、生産・流通を担う人や組織などの人的資源や情報資源などの総合的な管理・運用・評価に必要な知識と技術の修得を目標とした教育・研究を行います。

森林草地環境科学専攻 入学定員10人

学位: 修士(農学), 修士(学術)

本専攻は、地球上の陸圏生態系の60%以上を占める森林、草地および乾燥地域における環境科学ならびに生態系、資源管理に関する教育・研究を行います。森林、草地および乾燥地生態系の総合的な管理(生物資源の持続的生産、保全、再生および修復)を目指すフィールド科学と、そこで生産される生物資源の開発ならびに利用方策を探究する生物材料科学とを基本に展開される応用科学を担当します。

水産科学専攻 入学定員10人

学位: 修士(水産学), 修士(学術)

本専攻では、海洋・河川・池沼など水圏における生物生産に関する幅広い基礎的知識や生態系との調和を前提とした生産技術および研究手法を教育・研究しており、水圏生物の生息環境の保全、資源管理、増養殖、魚病対策、利用技術の開発等に関して倫理的でかつ高度な専門的知識の習得を目指します。延岡フィールドセンターにおける実践的なフィールド教育とともに、宮崎地域における唯一の水産科学分野のシンクタンクとして、研究推進、産業振興ならびに後継者育成における中心的役割を果たしています。

応用生物科学専攻 入学定員20人

学位: 修士(農学), 修士(学術)

本専攻は、動物、植物、微生物並びにそれらを利用した食品、また、それらを育む土壌・生態系が持つ機能を生化学的、遺伝子工学のおよび食品機能学的に解明するための教育研究を行っています。学部(応用生物科学科)において修得した知識をベースとして、本専攻ではさらなる知識と技法を修得します。

博士課程 鹿児島大学大学院連合農学研究科

平成19年度から宮崎大学大学院農学工学総合研究科(博士後期課程)の設置に伴い、鹿児島大学大学院連合農学研究科を離脱し入学者の募集を停止しました。なお、平成18年度入学生が修了するまで教育体制は存続します。

博士課程 山口大学大学院連合獣医学研究科

山口大学、宮崎大学、鳥取大学、鹿児島大学の農学部獣医学科を連合して構成する博士課程です。獣医学に関する高度の専門的知識と豊かな学識をそなえ、かつ、柔軟な思考力と広い視野を持って社会の多様な方面で活躍できる高級技術者及び独創的な研究者の養成を目的としています。

University of Miyazaki



大学のみならず、地域の
学習・教育・研究もバックアップする
充実した図書館



本館(木花キャンパス)



医学分館(清武キャンパス)

附属図書館

附属図書館(以下、「図書館」という)は、本館(木花キャンパス)と医学分館(清武キャンパス)から構成されており、宮崎大学における教育・研究を支援する組織として、また地域に貢献する組織として活動しています。

図書館の役割は、学術情報の収集・蓄積・提供、学習環境の整備などです。このため、図書館では長年にわたって、蔵書(蔵書数:約60万冊)を構築するとともに、近年はインターネットを介しての情報提供体制を整え、図書館資料(図書や雑誌など)が有効に活用される環境(ハード及びソフトの面)を整えるべく努めています。

これらのことを具体化するため、図書館では近年、学生用図書の充実、電子ジャーナル(学内限定でオンラインで利用できる学術雑誌)の整備、機関リポジトリ(学内生産の電子的研究成果物の収集・保存・発信)の構築等に努めています。また図書館を有効に活用していただくため、ホームページの充実、文献検索講習会の開催などを実施しています。

大学には社会との連携が強く求められていますから、図書館においても、地域の方に図書館を開放するだけでなく、県内の大学図書館、公共図書館との連携の進展にも取り組んでいます。

図書館ホームページ <http://www.lib.miyazaki-u.ac.jp/>

コレクション

◎大正新脩大藏經 全100巻

このコレクションは、膨大な数のインド仏典の漢訳を10年以上の歳月をかけて全100巻に編集したものです。梵語写本の多くが失われている現在、仏教研究者にとって漢訳仏典は非常に重要であり、特にこの大藏經はその校正の厳密さゆえに高く評価されています。

◎イギリス教育史コレクション 467点

このコレクションは、16世紀イギリスの人文主義教育思想家アスカムから20世紀に至るイギリスの教育思想(史)、教育史に関するオリジナル文献・研究書を幅広く収めています。

◎アレン・ハット旧蔵 世界労働運動史コレクション 996点

本コレクションは、「イギリス労働運動史」の著者として知られる労働運動史家アレン・ハットが所蔵していた、イギリス並びに英ソ関係を中心とした世界労働運動史の様々な文献から成り立っています。

守り続けます。地域の人々と学生の健康。



医学部附属病院

宮崎大学医学部附属病院は、昭和52年に開設された地上7階の建物に、総病床数616を有する宮崎県における中核的医療機関です。

診療のみではなく、在学生の臨床教育の場でもあり、卒後2年間の研修医としての初期臨床研修、それに続くレジデント・医員としての診療や研究並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修の場でもあります。

平成6年に特定機能病院の指定を受け、高度医療に関する研修を実施する能力・人員配置及び構造設備等を有し、高度医療技術の開発や評価も行っています。

平成15年には日本医療機能評価機構による「病院機能評価複合B」の認定を受け、最新の高度な医療を安全に提供し、患者さん本位の医療を達成することを目的に、各診療科及び各中央診療部門に、最新の医療機器と優秀な医療スタッフをそろえ、医療内容の高度化、多様化に加え、時と共に変わる疾病構造の変化にも適切に対応できる体制を整え、地域に貢献できるより良い病院を目指しています。

さらに、平成18年11月からは、中央診療棟の新設、外来棟の新設、病棟等の改修を柱とした附属病院再整備に着手し、一層の病院機能の向上を目指しています。



◎理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

◎基本方針

- 1.患者さん中心の最適な医療の実践
- 2.地域の要望にこたえる医療の実践
- 3.先端医療の開発と提供
- 4.人間性豊かな医療人の育成
- 5.お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備



安全衛生保健センター

安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートすると共に、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。

日常業務では、急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。

また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っています。

◎主な業務内容は以下のとおりです。

1. 定期及び臨時健康診断
2. 健康相談及び一次救急処置
3. 心の健康保持に必要な精神医療相談
4. 学内の環境衛生等に対する助言・指導
5. 保健管理・労働安全の充実・改善・向上に向けた調査研究
6. 健康保持増進への予防医学的啓発と学生教育の支援



学内共同教育研究施設
University of Miyazaki

総合教育研究棟



快適に学ぶために、充実した教育関連施設がここにあります。



◎産学連携センター

当センターは、産学連携・知的財産及び機器分析支援の3部門から構成されています。「産学連携部門」は、地域・産業界からの技術・科学相談に応じる他、大学シーズと企業ニーズをマッチングさせ、新たな共同研究を支援します。「知的財産部門」は、研究成果等を知的財産として管理する他、特許等を取得し、地域・産業界へ還元する役目を担います。「機器分析支援部門」は、特殊な分析機器を多数所有しており、各種試験・分析依頼に応えます。以上、本学の産学連携の窓口として、地域産業界の振興に貢献することを目指しています。

◎教育研究・地域連携センター

平成19年4月から、生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、大学の教育研究等の質の向上に関する調査・研究と併せて、公開講座等の生涯学習事業の企画運営、高大連携、大学開放事業、生涯学習・地域連携に関する情報提供・相談活動等、広く地域社会との連携を推進するセンターとして再出発しました。



◎フロンティア科学実験総合センター

「フロンティア科学実験総合センター」は、学際的な生命科学研究を行う「生命科学研究部門」と教育・研究活動を支援する「実験支援部門」の2部門で構成されています。「生命科学研究部門」は、「生理活性物質探索分野」、「生体機能制御分野」、「生命環境科学分野」の3分野で構成され、「生理活性ペプチドと生体システムの制御」の研究を担っています。「実験支援部門」は、次の4つの分野で構成されています。「生物資源分野」、「分子形態・機能解析分野」は清武キャンパス、「遺伝資源分野」は木花キャンパス、「RI分野」は両キャンパスにあり、本学の広範な教育研究活動の支援を主な業務とすると共に独自の研究を行っています。

◎総合情報処理センター

総合情報処理センターは、大学内の各種情報システムおよび学内コンピュータネットワークの構築と管理運用とを行う学内共同教育研究施設です。情報処理教育の支援や、大学運営の電子情報化支援を行っています。また、学内のみならず宮崎地域の教育研究活動に広く貢献し、インターネット技術普及の中心的役割を担っています。



◎国際連携センター

国際連携センターは、本学と世界との架け橋として、本学の国際戦略に基づいた学術研究や教育の国際連携・協力事業の企画立案やサポートを行います。「国際協力部門」は学術交流のほか、本学がコンサルタント登録しているJICAと連携して、国際教育協力、保健医療、アジア砒素汚染対策、農業開発などの事業を、「留学生支援部門」は多言語教育・日本語教育、国際広報、学生交流プログラム、生活指導などの事業を担当します。

キャンパスライフをより楽しくするために、
 いろいろな施設も充実。

その他の施設 University of Miyazaki

キャンパスライフを支える施設

◎大学会館

大学会館は、地下1階と1階の福利施設および2階・3階の学務部等からなる多目的施設となっています。福利施設として、宮崎大学生活協同組合が運営する売店、食堂、喫茶室等が設けてあり、学生及び教職員相互の交流の場ともなっています。2階には「学務部」、3階には「なんでも相談室」等があります。



◎居住施設<学生寄宿舍及び国際交流宿舎>

学生に良好な勉学の場を提供し、その修学を容易にすることを目的として、大学の敷地内に男子寄宿舍、女子寄宿舍及び日本人学生と外国人留学生とが居住する国際交流宿舎が設置されており、国際交流宿舎Ⅱには、外国人留学生・研究者の夫婦、家族室があります。

また、農学部住吉フィールド(牧場)には、畜産別科生が入居する住吉寄宿舍があります。



◎学生なんでも相談室

大学会館3階に設置しており、学生の皆さんの様々な相談に応じています。困っていること、悩んでいることがある場合は、気軽に来室してください。また、メールでも相談を受け付けています。



メール：soudan@gakusei.miyazaki-u.ac.jp

◎入学科・授業料

入学科	282,000円
授業料	(各期) 267,900円
	(年額) 535,800円

法令改正等により変更の場合があります。

◎入学・授業料の免除等制度

〈入学科〉特別な事情により、入学科の納付が著しく困難であると認められる場合、免除する制度です。
 〈授業料〉経済的理由等により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、免除する制度です。

※免除等を希望する場合は担当におたずね下さい。

◎奨学金制度

〈日本学生支援機構〉人物・学業ともに優れ、経済的理由により修学が困難であると認められる学生に対し日本学生支援機構が奨学金を貸与する制度です。種類は第一種(無利子)、第二種(有利子)です。

〈その他の奨学金〉地方公共団体及び民間育英事業団体等の奨学金があります。希望学生は担当におたずね下さい。

◎学生教育研究災害傷害保険制度

大学における学生の教育研究活動中・正課中・学校行事中・課外活動中等の災害事故等に対する保険補償制度です。詳細については、担当におたずね下さい。

◎体育施設・課外活動施設

木花キャンパス

体育館(武道館)
陸上競技場(400m)
テニスコート(ハード・クレイ)
野球場
サッカー場
ラグビー場
プール(50m)
厩舎
弓道場
課外活動共用施設
課外活動施設(音楽棟)
和室

清武キャンパス

体育館
多目的グラウンド
球技コート
テニスコート(ハード・クレイ)
プール(50m)
武道場
弓道場
音楽鑑賞室
和室



◎課外活動 本学には、次のような課外活動団体が双方のキャンパスにあり、活発な活動を行っています。

木花キャンパス

体育系サークル(32団体)

陸上競技部・硬式野球部・サッカー部・ラグビー部・硬式庭球部・ソフトテニス部・バドミントン部・卓球部・ハンドボール部・空手道部・体操競技部・剣道部・柔道部・弓道部・水泳部・馬術部・ヨット部・航空部・自動車部・自転車部・サーフィン部・テコンドー部・少林寺拳法部・バレーボール部(男子・女子)・バスケットボール部(男子・女子)・ワンダーフォーゲル部・ウィンドサーフィン部・アメリカンフットボール部・合気道部・スポーツチャンバラ部

文化系サークル(16団体)

吹奏楽部・室内楽合奏団・茶道部・写真部・天文学研究部・生物研究部・映画研究部・漫画研究部・気球部・コンピュータクラブ・びいだま(ボランティア)・子供のためのプログラム研究会(PFC)・クラシックギタークラブ・ブルースカイ合唱団・モダンJazz研究部・軽音楽部「あきかん」

同好会(27団体)

ハトポツ(硬式テニス)他

清武キャンパス

体育系サークル(26団体)

柔道部・剣道部・弓道部・空手道部・サッカー部・硬式庭球部・ソフトテニス部・卓球部・水泳部・ヨット部・ラグビー部・漕艇部・ゴルフ部・陸上競技部・ビリヤード部・居合道部・ボクシング部・ワンダーフォーゲル部・ウィンドサーフィン部・モータースポーツ部・バドミントン部・準硬式野球部・ソフトボール部・バレーボール部・バスケットボール部・看護学科硬式テニス部

文化系サークル(16団体)

合唱部・軽音楽部・生物部・マイコン部・聖書研究会・茶道部・演劇部・美術部・写真部・漢方医学研究会・囲碁部・ESS・室内楽部・宮崎メディカルサークル・国際保健医療研究会・ヒューマン・フォーラム

University of Miyazaki

カリキュラムの概要 ※授業科目は、共通科目と専門科目の2つがあります。

< 共通科目 >

38単位以上

共通科目については、38単位以上修得しなければなりません。なお、医学部看護学科は28単位以上となっています。「共通科目」は、高等教育を受ける上で必要な知的技法などを育成する「大学教育基礎科目」、幅広く深い教養、総合的な判断力、豊かな人間性の涵養を目指す「教養科目」の2つの区分からなっています。原則として、必修教養科目は1年次に履修し、選択教養科目は2年次に履修するようになっています。さらに一部の教養科目を3・4年次に履修することも可能です。

< 専門科目 > ※専門科目の修得単位は、各学科で異なっていて、最低修得単位は下記のようになっています。

教育文化学部	学校教育課程	102単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年次から専門科目を履修 ● 1年次後学期に教職入門を履修 ● 教育実習は <ul style="list-style-type: none"> ◆ 2年次前学期に実習Ⅰ（1週間） ◆ 3年次後学期に実習Ⅱ（3週間） ◆ 4年次前学期に実習Ⅲ（2週間） の計6週間履修
	地域文化課程	88単位以上	● 1年次から専門科目を履修
	生活文化課程	88単位以上	● 1年次から専門科目を履修
	社会システム課程	88単位以上	● 1年次から専門科目を履修
医学部	医学科	206.5単位以上	● 1年次から専門科目を履修
	看護学科	102単位以上	● 1年次から専門科目を履修
工学部	材料物理工学科 物質環境化学科 電気電子工学科 土木環境工学科 機械システム工学科 情報システム工学科	90単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年次から専門科目を履修 ● 1年次から数学、物理学、化学などに関する基礎教育科目及び各学科の概論など共通授業科目を履修
農学部	食料生産科学科 生物環境科学科 地域農業システム学科 応用生物科学科	90単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年次から専門科目を履修 ● 1年次には農学的基礎学力の充実・強化を図るための学部共通科目・専門基礎科目を履修 ● 2年次以降は専門的応用能力と問題解決能力を養成するための専門科目を履修
	獣医学科	149単位以上	● 1年次から獣医学の専門科目を履修

卒業後の進路や職業分野 取得できる免許・資格(受験資格)

<学部>

●教育文化学部

- 進路の概要
小学校・中学校・高等学校の教員、企業等の総合職、大学院進学
- 主な職業分野
各種教育機関、公務員、教育関連企業、多岐分野の企業等

●医学部

- 進路の概要
臨床研修医、看護師、保健師、助産師、大学院進学
- 主な職業分野
各種医療機関

●工学部

- 進路の概要
企業等の技術職、研究職、大学院進学
- 主な職業分野
ソフトウェア・システム開発、化学・食品関係、電機メーカー、ゼネコン、機械・輸送、公務員

●農学部

- 進路の概要
企業等の技術職、研究職、大学院進学、獣医師
- 主な職業分野
食品関係、薬品関係、農業・畜産業・水産業等協同組合、動物病院、公務員

<大学院修士課程>

●教育学研究科

- 進路の概要
小学校・中学校・高等学校の教員、教育関連の専門職、大学院進学
- 主な職業分野
各種教育機関、教育関連企業

●医学系研究科

- 進路の概要
企業等の技術職、研究職
- 主な職業分野
医学・医療関連企業等

●工学研究科

- 進路の概要
企業等の技術職、研究職、大学院進学
- 主な職業分野
電気・半導体関連、化学・医療・食品関係、電機メーカー、ゼネコン、機械・輸送、ソフトウェア・システム開発、公務員

●農学研究科

- 進路の概要
企業等の技術職、研究職、大学院進学
- 主な職業分野
食品関係、薬品関係、農業・畜産業・水産業等協同組合、公務員

<大学院博士課程>

●医学系研究科

- 進路の概要
医療機関の医師、企業等の研究職
- 主な職業分野
各種医療・医学関連機関

<大学院博士後期課程>

●工学研究科 (平成19年度から募集停止)

- 進路の概要
企業等の研究職、大学・高等専門学校の教員
- 主な職業分野
専攻分野の研究職(物質エネルギー工学・システム工学)、高等教育機関

●農学工学総合研究科 (平成19年4月設置)

学部	課程コース等	免許状					小学校教諭免許状	中学校教諭免許状	高等学校教諭免許状	特別支援学校教諭免許状	幼稚園教諭免許状
		学校教育 選修	幼稚園副専攻 障害児副専攻	1種	2種	2種	2種	2種	2種	2種	1種
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース	学校教育選修	幼稚園副専攻 障害児副専攻	1種	2種	2種	2種	2種	2種又は1種	
			文系・理系及び芸術・体育系 教科教育選修	1種	2種 1種※	1種※	2種	2種又は1種			
	中学校教育コース	文系及び理系教科教育選修	2種	1種+2種 1種※	1種☆ 1種※	2種	2種				
		芸術・保健体育系教科教育選修	2種、1種	1種、2種	1種	2種	2種				
	障害児教育コース	小学校副専攻	1種	2種		1種	2種又は1種				
		中学校副専攻	2種	1種	1種☆	1種	2種				
工学部	地域文化課程		高等学校教諭1種免許状★(「地理歴史」又は「英語」)								
	生活文化課程	芸術文化コース	高等学校教諭1種免許状★(「音楽」又は「美術」)								
		生活健康コース	高等学校教諭1種免許状★(「保健体育」又は「家庭」)								
		生活環境コース	高等学校教諭1種免許状★(「理科」又は「情報」)								
社会システム課程		高等学校教諭1種免許状★(「公民」)									
(備考) 1.学校教育課程欄の太字は卒業時に取得できる免許、細字は努力次第で取得可能な免許の例です。なお、☆の高校「地理歴史」、「公民」、「工業」については、指定された単位の修得が必要です。また、※は副専攻教科の中学校1種と高校1種の免許取得を想定しています。 2.学校教育課程で取得できる、中学校及び高等学校の免許教科は次のとおりです。中学校:国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語 高等学校:国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・工業・家庭・英語 3.特別支援学校教諭免許状に記載される領域は、知的障害者、肢体不自由者、病弱者の3領域です。 4.★については、別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得する必要があります。 5.学芸員の資格:所定の単位を修得し、申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。 6.学校図書館司書教諭の資格:大学で開催の講習単位を修得すれば「修了証」が交付されます。											
医学部	医学科	医師									
	看護学科	看護師、保健師、助産師									
工学部	材料物理工学科	高等学校教諭1種免許状(工業)、高等学校教諭1種免許状(理科)									
	物質環境化学科	高等学校教諭1種免許状(工業)、高等学校教諭1種免許状(理科) 毒物劇物取扱責任者、安全管理者、甲種危険物取扱者受験資格									
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状(工業)、※第1種電気主任技術者									
	土木環境工学科	高等学校教諭1種免許状(工業)、測量士補									
	機械システム工学科	高等学校教諭1種免許状(工業)、エネルギー管理士(熱管理士)、※機械設計技術者									
	情報システム工学科	高等学校教諭1種免許状(工業)									
(備考) ※資格取得に際しては、実務経験や所定の条件などを要するものがあります。											
農学部	食料生産科学科	高等学校教諭1種免許状(農業・理科) 食品衛生管理者、食品衛生監視員、家畜人工授精師、実験動物一級技術師の受験資格、樹木医補									
	生物環境科学科	高等学校教諭1種免許状(農業・水産・理科) 食品衛生管理者、食品衛生監視員、樹木医補									
	地域農業システム学科	高等学校教諭1種免許状(農業) 測量士補、樹木医補									
	応用生物科学科	高等学校教諭1種免許状(農業・理科) 食品衛生管理者、食品衛生監視員 毒物劇物取扱責任者									
	獣医学科	獣医師 高等学校教諭1種免許状(農業)									
(備考) 学芸員の資格:所定の単位を取得し、申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。											

木花
キャンパス

共通教育

- 1 講義棟

農学部

- 2 実験研究棟(北)
- 3 講義棟
- 4 実験研究棟(南)
- 5 実験研究棟(獣医)
- 6 附属動物病院
- 7 附属農業博物館
- 8 標本植物温室
- 9 附属自然共生フィールド科学教育研究センター

教育文化学部

- 10 実験研究棟
- 11 美術棟
- 12 技術家庭棟
- 13 音楽棟
- 14 附属教育実践総合センター

工学部

- 15 実験研究棟(A棟)
- 16 講義棟(B棟)
- 17 実験研究棟(C棟)
- 18 機械実習工場
- 19 機械システム実験実習棟
- 20 高電圧実験実習棟
- 21 土壌環境実験実習棟
- 22 実験研究棟(E棟)

- 23 大会館
- 24 附属図書館(国際連携センター)
- 25 共通棟(事務局)
- 26 安全衛生保健センター
- 27 総合情報処理センター
- 28 R1木花分室(アイストップセンター)
- 29 産学連携センター
- 30 教育研究・地域連携センター
- 31 産学連携センター(機器分析支援部門)
- 32 遺伝資源分野(遺伝子実験施設)
- 33 総合研究棟
- 34 国際交流宿舎
- 35 女子寄宿舎
- 36 男子寄宿舎



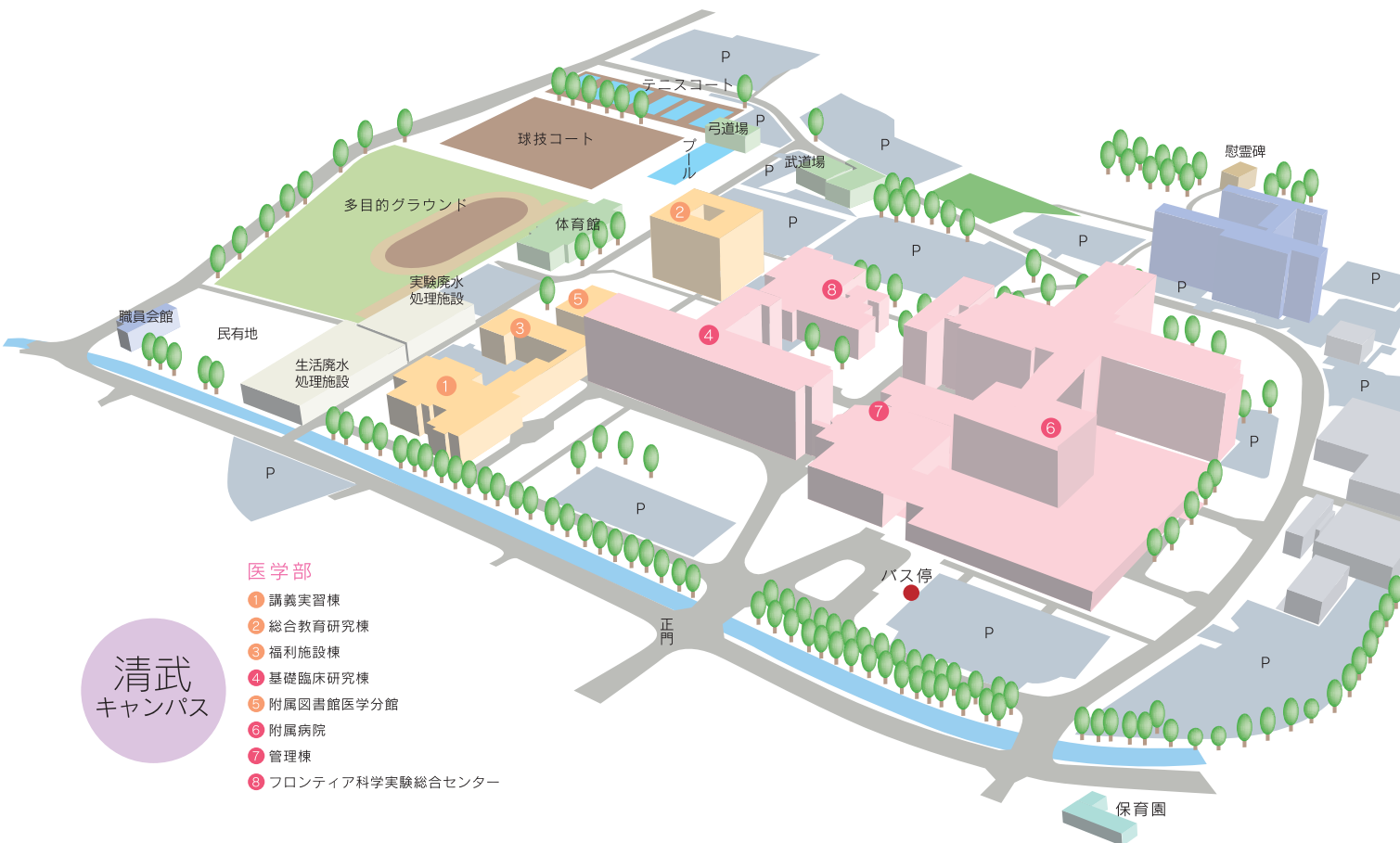
University of Miyazaki

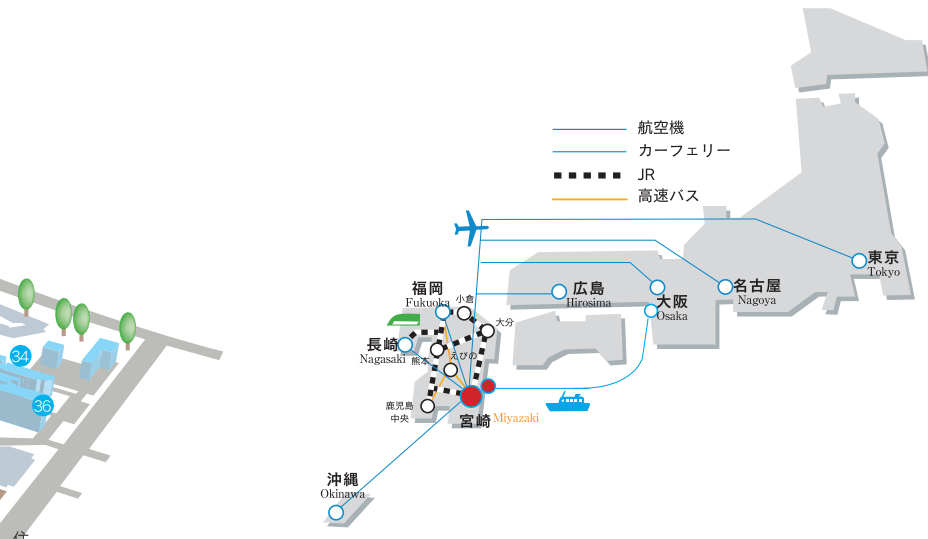
楽しく学び過ごす、木花と清武キャンパスへ

清武
キャンパス

医学部

- 1 講義実習棟
- 2 総合教育研究棟
- 3 福利施設棟
- 4 基礎臨床研究棟
- 5 附属図書館医学分館
- 6 附属病院
- 7 管理棟
- 8 フロンティア科学実験総合センター





航空機		高速バス	
東京	105分	福岡	4時間
名古屋	80分	熊本	3時間
大阪	70分	鹿児島	2時間30分
広島	60分	長崎	5時間20分
福岡	40分		
長崎	40分		
沖縄	80分		

JR(特急)	
博多	5時間10分
小倉	4時間30分
熊本	3時間40分
大分	3時間
鹿児島中央	2時間10分

新幹線利用(新八代-鹿児島中央)

カーフェリー	
大阪	12時間20分

宮崎大学までの交通機関

(1R市宮崎駅近く)

宮交シティバスセンター	宮交バス	【宮崎大学・大学病院行】に乗車	約25分
		【宮崎大学行】に乗車	約35分
JR清武駅	宮交バス	【宮崎大学・大学病院行】に乗車	約15分
宮崎空港	タクシー	宮崎大学まで	約8km / 約15分
宮崎港	宮交バス	【宮交シティ行】	約30分
	宮交バス	【宮崎大学・大学病院行】に乗車	約25分
		【宮崎大学行】に乗車	約35分
宮崎自動車道		清武インターから	約10分



Access Map



情熱発見。

University of Miyazaki
A Guide to the University of Miyazaki



宮崎大学

国立大学法人宮崎大学 2007-2008

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

URL <http://www.miyazaki-u.ac.jp/>

【編集発行】

国立大学法人宮崎大学広報戦略室

TEL(0985)58-7106 FAX(0985)58-2886

【入試に関するお問い合わせ】

国立大学法人宮崎大学学務部入試課入試係

TEL(0985)58-7138 FAX(0985)58-2865



●このパンフレットには、環境に優しい大豆油インキと再生紙を使用しています。